



ききょうだより

山県市立
美山小学校
第6号
令和元年
8月29日

===教育目標：『磨き 輝き 未来をともに拓く』===

今年の夏も暑い日が続きました。この暑さは、もはや異常気象ではなく、梅雨明け後の「通常」と考えるべきなのかもしれません。太陽が出ている間は、外での活動はできません。9月前半の美山小は運動会一色となります。熱中症が心配です。暑さを経験した後の熱中症は、最低気温が20℃を下回ると急に発生率が低下しますが、体調で左右されます。規則正しい生活の確立をお願いします。

全力を尽くして成長する

平気で耐える

酒井 馨

苦は絶対のものでない

30kgの荷物を持ったら 誰もが同じ苦しみを味わうだろうか

50kgの荷物を持ったことのある人間には30kgの荷物は平気であり楽である

10kgの荷物しか持ったことのない人間には30kgの荷物を持つことは耐えきれない苦しみであろう

今 きみが耐えきれないほど苦しいなら

きみは 今まで苦難にあわなかったことに感謝して 耐えていけ

今 きみが 他の人が苦しんでいる環境に平気で耐えていけるのなら 過去の苦しい鍛練のおかげだと感謝せよ

きみは どんな苦難にあっても 平気で耐える力を若いときの鍛練で身に付けておけ

強い鍛練と修練を経た人間には どんな苦難も笑って通り越せる

わずかな苦勞に耐えきれないか 耐えきれないなら反省せよ

きみは今まで そんな苦勞に耐える自分を鍛えなかったのだ

どんな苦勞も 平気で耐えられるか 耐えられるなら喜べ

きみは今まで それ以上の苦勞の中で 自分を鍛えたおかげである



人の心は弱いものです。様々なことで苦しい、しんどい思いをしているのは子どもも大人も同じです。話を聞くと、「そんなささいな事で？」という時もあります。そんな時、下手なアドバイスよりこの詩を伝えた方が効果的な事もありました。

前号の「ききょうだより」では、運動会は「仲間と同じ目標に向かってがんばる心地よさを味わおう」と書きました。「理屈抜きで精一杯がんばることのすがすがしさを味わい、目標を共有して努力した者のみが味わえる感覚を育てる、こういう経験は、地域や社会で活動する際のエネルギーとなり、「やりがい」につながる」とも書きました。今回は、さらにこの詩にあるような「しんどさ、つらさに耐える力を付ける」ことを伝えたいです。現在の子どもを取り巻く環境は以前と比べものにならないくらい、ある意味快適です。周りの大人が様々な手をさしのべます。しかし、誰もがいつかは社会に出ます。社会のしんどさは今も昔も基本的に変わっていません。他人に迷惑をかけず、自分の稼ぎで食べていくのは簡単なことではありません。社会人となった時、少々のことではへこたれない心と体の強さを身に付けるのも運動会のねらいの一つと考えています。 (校長 河村 一彦)

もう何年も前、中3を担任した時、隣のクラスの担任が通信に書いていたものです。私は初めてこの詩を読み、その通りだと共感しました。それ以来担任する学級の生徒や担当する野球部の生徒達に紹介してきました。